

東都生協のロングセラー ねり状米ぬか石けん 「セモラ」

「こげ茶色の台所用石けん「セモラ」
決しておじゃれな見た目とは言えませんが、
一度使うと、手放せなくなるはずですよ。
専用の「セモラスポンジ」とセットで
使ってみてください。」

今月の産地・
メーカー

社会福祉法人ときわ会
サングリーン

社会福祉法人ときわ会 サングリーン



「米ぬか原料だから肌にやさしい」

毎週企画品

ねり状
米ぬか石けん「セモラ」240g

参考価格: ㊦298円(税込327円)

「目が粗く、泡立ち良し!」

毎週企画品

セモラ
スポンジ
3個組

参考価格: ㊦540円(税込594円)



9月5回商品案内「Sanbonsugi」のp.70でもご案内しています。

働く誇りと職人技が光る、 セモラ作りの現場



支援員の
安達侑光子さん

MOGMOG編集委員と商品本部職員の計6人で、ねり状米ぬか石けん「セモラ」を製造する社会福祉法人ときわ会サングリーン工場見学を行いました。

当日は朝9時から作業がスタート。障害のある人たちが、自身の障害や体調とうまく向き合いながら誇りを持って働いていました。

「ここが石けん工場なの?」食品工場と見間違えうほど内部は清潔に保たれ、異物混入を防ぐための徹底した清掃管理が行われていました。

工場内は冷房が入っていますが、カセイソーダを扱う工程では換気のために窓を開け



清掃の済んだ釜の前に立つ作業員の皆さん

ることもあり、真夏には温度計の針が42度〜45度を指すことも。なるべく6〜8月は作らなくて済むように日程調整を行っているとのこと。釜の洗浄・乾燥から、練り上げたセモラの充填まで、一連の流れで5日間かけて製造し、1回に1100〜1300個が出来上がります。

作業中は、支援員の安達さんが全工程を管理・進行。次々に指示の声が飛びます。想像以上の大きな釜に大量の米ぬかを入れる作業は、皆さんの息が合ったバケツリレーで手際良く行われていました。

セモラの製造には熟練の職人技が問われる工程が多数あります。充填は特に難易度が高く、ベテラン作業員しかできないそうです。

作業が一段落したら、床やバケツなど道具の清掃。消毒用アルコールと一緒にセモラを使い、ピカピカに磨いていきます。

皆さんが責任をもって持ち場を担当する姿に頭が下がる思いでした。

作業工程

1

米ぬかは、前日にふるいにかけ細かくしておく。

2

40kgずつポリバケツに入れた米ぬか4〜5個分を小分けにして釜に投入する。

3

カセイソーダを投入。その後、専用の装置で硬度を変えた軟水を適回数に分けて釜に加える。

4

40度から100度近くまで徐々に釜の温度を上げながら練り上げていく。

5

釜で約8時間かけて練り、夕方に機械を止めて半日寝かせる。充填しやすい固さに調整するため、温度を30度ほどに下げる。

6

翌日、練り上げた米ぬか石けんを機械（挽肉機）にかけ、専用の容器に充填して1個ずつパックする。

ポリバケツなどの資材もセモラで洗浄

季節によって釜の温度を微調整

和菓子の小豆あん用の業務用大釜を転用

バケツリレーで原料の米ぬかを釜に投入

カセイソーダを釜に投入

充填作業は熟練の作業員が担当

column コラム

環境にも優しいセモラ

石けんは、油脂をアルカリで加水分解する「鹸化」で作られます。セモラの油脂は国産の米ぬかを原料に、カセイソーダ(水酸化ナトリウム)との鹸化で作られています。香料・防腐剤などの添加物も不使用。合成界面活性剤で作られている一般の合成洗剤と比較すると、生分解性が良く、環境にも優しいのが特徴です。

わたしもセモラファンです!

「セモラ」の使い方

1

水を含ませたスポンジで石けんの表面をこすり取ります。

2

スポンジを2〜3回もんで泡立たせます。

3

食器を洗います。
※洗いおけにつけ置くと、石けんが食器に再付着するので、ご注意ください。

4

流水ですすぎます。

5

使用後は石けんの水切りをしっかりと行ってください。裏返しておくことをお勧めします。

地域

地域の作業所で働き、生活している人たちがこれからも応援していきたいですね。(K.Y)

お気に入り

お気に入りの理由は、セモラを使い始めてから手荒れが気にならなくなったこと。(A.T)

合成洗剤

合成洗剤の人工的な匂いと違って、セモラは洗い流せば無臭なのが気に入っています。(A.K)